ずいそう

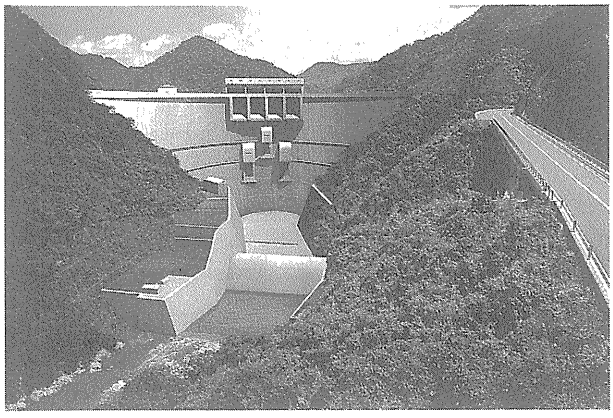
五木と相良（人吉）

味　岡　正　章

「おどまカンジン，カンジン
　あん人たちはよかしゅ
　よかしゅよかおびよかきもん」
の歌ではじまる五木の子守り歌が，全国へ広まったのは大正以降であるが，ここは現在全国でもその名を知られる川辺川ダム建設のまっただ中にある。

一つの通り口として，熊本の矢部から日本一の3,333階段を上り釈迦院から大通り峠をこえ，五木に入るルートは，いにしえよりの街道で古くは，壇ノ浦合戦により敗戦した平家の落人が通り五木にかくれすみ，また西南の役で西郷隆盛が撤退時，このルートを取った。この峠を越えるにあたり旧相良藩（現在の人吉）の人々がちょうちんを下げ迎えようとした由来により，大通り峠と称されるようになったとされている（相良藩の人々の西郷氏への想いが伝わる）。

旧相良藩（現在の人吉）は，徳川幕府よりも100年長い400年の歴史を持ち，藩時代は，相良忍群を全国へ配し，世の中を検索し藩の往来を常に考え，また金策には薩摩藩に助けてもらっていた事も反映し，人材育成，財政施策に優れていた藩であった。



（川辺川ダム完成予想図）

位置	左岸　熊本県球磨郡相良村大字四浦字藤田 右岸　熊本県球磨郡相良村大字四浦字堂迫	ダムの形式	アーチ式コンクリートダム
河川名	球磨川水系川辺川	堤高	107.5 m 〔ダム天端標高 EL. 282.5 m 基礎岩盤標高 EL. 175.0 m〕
集水面積	470 km²	堤頂長	約300 m
湛水面積	3.91 km²	非越流部標高	EL. 282.5 m
総貯水容量	133,000千m³	常時満水位	EL. 280.0 m
有効貯水容量	106,000千m³	第1期制限水位	EL. 252.2 m（6月11日から9月15日まで）
洪水調節容量	第1期　84,000千m³ 第2期　53,000千m³	第2期制限水位	EL. 264.5 m（9月16日から10月15日まで）
堆砂容量	27,000千m³	計画高水流量	3,520 m³/s
利水容量	22,000千m³	洪水調節	計画高水流量3,520 m³/sのうち3,320 m³/sを調節する。
		計画最大放流量	800 m³/s

人々は，人吉の事をおひとよしと称するが，昔より結束強く寄り合衆によりものごとを決定していたようで，その風習は，一部，今でも受け継がれているが，近年，ダム建設と共に，人々の生活様式も変化し，考え方も多種多様となり，昔の風習も鈍化している。

荷車1台程度通れる峠も，現在ダム建設と共にトンネルを造り，2車線道路を造り，五木村への通行が便利となり九州の内で一番の秘境から，いつでも行ける秘境に変貌し，五木村は，新しい村へと変化，現在では，りっぱな人家が軒をつらねる近代的村へと発展している。

今では，五木の子守り歌も民謡として姿をかえている。今後，ダム本体着工へ向け建設が進んで行くと思われるが，五木村周辺は，古いくらしから新しい近代的な村へと変化し，五木～人吉間を3時間かかった所が30分程度で行ける村になった。ダム建設賛成，反対への論議あるものの交通は便利になり，いろんな人たちが数多くおとずれる所に変貌している。

川辺ダム

川辺ダムは，球磨川水系川辺川上流に建設される。「洪水調整」「発電」「水源開発」等を目的としたアーチコンクリートダムで主な諸元は表のとおりである。

終りに

五木は古くから九州の秘境と言われ，平家の落人がかくれ住み非常に貧しい村であったが，ダム建設という公共事業の恩恵をうけ，新しい近代村に変貌，また下流の相良（人吉）については，あばれ球磨川との戦にある。「何度も水害に合う」現在，ダム建設計画35年が過ぎ，現在の建設技術の発展と共に，道路が新設され全国にもめずらしい新しいダム建設のありかたを示しているが，世の中の思考が変化し，「環境問題のあり方」が見直される中，今後，ダム本体着工前にしてダム建設賛否の嵐がふきあれている。

私は，今もって人吉大水害を味わった者として環境も十分考慮する必要には賛成するが，「危機管理」に対する事も十分念頭に入れるべきであると思っている。

自然災害は，忘れた時にやって来るのが常であると自負してやまない。

――あじおか　まさあき　味岡建設株式会社代表取締役――